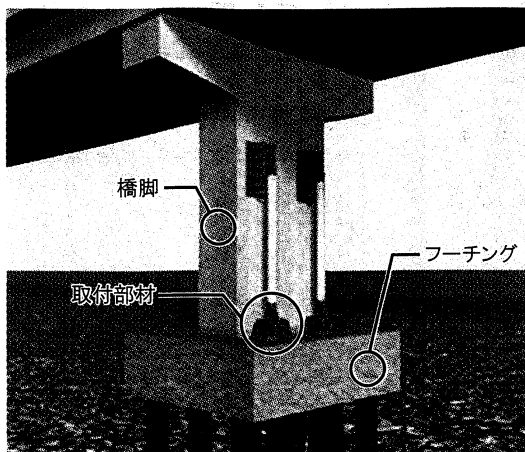


維持補修の商品拡充

「橋脚ダンパー工法」本格販売



橋脚ダンパー工法のイメージ

JFEシビルは、今後拡大が見込まれる維持補修市場向けに商品の拡充を図る。橋脚の耐震補強に適用される「二重鋼管ダンパー」のNETIS(新技術情報提供システム)登録が完了。ダンパーを橋脚とフーチング間に縦に沿わせて設置することで地震エネルギーを吸収し、橋脚の耐震性能を向上させる「橋脚ダンパー工法」の本

部分取付け 容易性をPR

従来のRC巻き立て補強では、橋脚の耐力と剛性が大きく向上するものの、基礎部分への曲げやせん断の荷重が大きくなり、杭を含めた基礎の補強、増築が必要となる場合がある。橋脚ダンパー工法では脚柱とフーチングの間でダンパーが塑性化し、エネルギーを吸収。基礎に伝わる荷重の増分を抑制できるため基礎補

強が削減でき、45%のコストダウンが実現できる。加えて橋脚ダンパーが地震で損傷を受けた場合でも、躯体を覆っていないために損傷点検が簡単で、補強、復旧工事の工程が短縮できる利点もある。

また、道路高架橋の床版下面や梁部材の老朽化も課題となっている。同社は鉄筋による増厚工法、鋼板溶接工法に代わるコンクリート構造物の補修・補強用格子鋼板筋「グリッドメタル」も共同

研究により開発し、NETIS登録を完了した。「グリッドメタル」は1枚の鋼板にレーザー加工と展張加工をして格子状にすること、主筋と配力筋

インフラ展に出展

同社は20日から22日まで、東京・有明の東京ビッグサイトで開かれる第8回インフラ検査・維持管理展に出展する。「二重鋼管ダンパー」「グリッドメタル」のほか、高密度・乾式吹付材「RSショット」なども紹介する。

JFEシビル

格的な販売活動を開始した。橋脚全周に施工が必要な従来工法に比べて、部分的にダンパーを取り付けるだけで容易に施工できることなどをPRする。今塩宏之(社会基盤事業部副事業部長・理事)は「今後は基礎を含めた最適な橋脚補強が本格化する」と見込んでおり、4年後には10億円の売り上げを目指す。